

三重県へき地医療通信

第4号

発行元

三重県

へき地医療支援機構

電話 0599-43-0501

発行日

平成16年11月1日

17年度自治医大
入試受験者募集

三重県では、地域社会の医療の確保と向上および地域の住民の福祉の増進を図ることを目的に、この地域医療に貢献するのに最も適した総合医を主として育成するための自治医科大学の入学生を募集します。詳しくは、県健康福祉部医療政策室 急・へき地対策G 電話059 224 3370またはホームページ（支援機構HPからリンクあり）<http://www.pref.mie.jp/irvos/jitidai/rvusi.htm>

平成16年度第1回三重県へき地医療研修会が9月4日・5日へき地医療の質の向上をめざし、へき地医療研修会を2日間にわたり南勢町相賀浦で開催いたしました。へき地・地域医療の一端で働くスタッフら67名が参加。南勢町住民の方にもご参加いただいたワークショップ、講演会、実技研修と盛りだくさんで、会場は熱気に包まれました。

「いろいろな職種の方と出会え、コミュニケーションがとれた」

今回の南勢町開催には、奈良・愛知の県外からの参加も含む、医師・看護師・事務・保健師ら10職種67名に参加いただきました。遠路協力いただいた講師先生方のおかげで開催できた講演会・実技研修など盛りだくさんのプログラムは好評でした。また、1日目研修日程終了後の懇親会では、志を同じくするもの同士熱心な意見交換が夜遅くまで続きました。



ワークショップを2つ開催

【御礼】南勢町相賀浦区民、南勢町立病院職員様をはじめ遠方より参加頂きました皆様、H17年度も地域でのへき地医療研修会をお楽しみに！

【アンケート結果・一部抜粋】
・他職種や行政関係とのコミュニケーションがとれた。
・地元民が入ったワークショップで直接声が聞けた。研修会に出にくい方に対して支援を。今後も各地でこのような研修会を計画してほしい。
・懇親会での意見交換が一番。
・H17年度も地域でのへき地医療研修会をお楽しみに！



三重県地域医療ふれあいネットワーク

<http://www.pref.mie.jp/irvos/hekiti/fureai.htm>

平成16年度よりへき地医師確保対策として県医師修学資金等貸与制度を創設するなど、県として取り組むことにより他県等で勤務する医師から問い合わせが寄せられています。とくに診療所希望者が多い印象です。寄せられた情報は、へき地医療ふれあいネットワーク等で医師募集を行っている地域医療機関・自治体へお知らせしております。よろしく活用ください。（県健康福祉部医療政策室 急・へき地対策G）

この号の関連地図



夏期へき地医療体験実習開催 果養成医師対象 県下3地域
平成16年度夏期へき地医療体験実習を8月20日・21日開催いたしました。従来からの自治医大学生に、本年度より県医師修学資金貸与者も加わり総勢8名が3地域（宮川村、南勢町、紀南地域）にわかれ実習。待合室で患者さんとお話する待合室実習、地域勤務医師との意見交換会などを行いました。終了後、参加者は県庁に集まり報告会も開催しております。

1日目 9月4日(土)

- 13:00 受付
- 13:30 開会
- 14:00 講演 A 岐阜県・郡上市国保和良病院長 後藤 忠雄 先生 「地域医療でできること」 ～岐阜市和良町、旧和良村は男性長寿日本～
- 15:30 ワークショップ 「地域にはどんな医師が求められているか？」 ～南勢町相賀浦の住民の方と一緒に考える～
- 17:00 医療を支える人々 「臓器移植の現状」 臓器移植コーディネーター 平田 典子 先生
- 17:15 終了
- 18:00 懇親会

2日目 9月5日(日)

- 9:00 開会
- 9:30 講演 A 南勢町立病院 理学療法士 東川 昌義 先生 「すぐには立派なリハビリテーションへき地におけるリハビリテーション」 B 実技研修 三重大学第一内科 医師 谷川 高士 先生 「きょうこばぶ心臓病生 その1」 ～BLSの習得(気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ)～
- 10:20 講演2 A ワークショップ 「へき地医療施設・診療所でありたい」 B 実技研修 三重大学第一内科 医師 谷川 高士 先生 「きょうこばぶ心臓病生 その2」 ～AED(自動体外式心臓動脈)の使い方について～
- 11:45 閉会

第1回へき地医療研修会 日程表
テーマ「へき地医療 地域医療入門」

山田赤十字病院が拠点病院参加 5番目・平成16年7月1日
主に鳥羽離島地域のへき地医療支援体制を強化するために、平成16年7月1日より、県内5番目のへき地医療拠点病院として山田赤十字病院が協力頂けることになりました。
【へき地医療拠点病院】 H16年9月現在
県立志摩病院 紀南病院 県立総合医療センター、尾鷲総合病院、山田赤十字病院（指定医）

平成16年度上半期代診支援実績

	鳥羽市立菅島診療所	鳥羽市立桃取診療所	鳥羽市立長岡診療所	紀和町立紀和診療所	計
県立志摩病院	2	5	9	1	17
紀南病院	0	0	0	24	24
県立総合医療センター	0	0	0	0	0
尾鷲総合病院	0	0	0	3	3
山田赤十字病院	0	1	0	0	1
計	2	6	9	28	45

平成16年度上半期 H16.4.1~9.30
紀南病院は紀和診療所へ定期支援

平成16年度上半期代診支援実績 依頼に対して派遣率100%
平成16年4月1日から9月30日まで
の支援実績です。特別休暇に伴う臨時代診を含め、依頼に対し100%へき地医療拠点病院より派遣いただきました。また、無医地区（紀南4地区）に対する巡回診療は、引き続き紀南病院が実施中です。
へき地医療拠点病院から医師が派遣される場合、派遣される医師の業務は、残された医師が担います。また、派遣調整には各病院事務担当者が協力頂いております。へき地診療所に対する代診制度は、派遣医師のみならずへき地医療拠点病院全体としての取り組みにより支えられています。

【編集後記】今年度は、ほとんどの都道府県に支援機構ができ、各支援機構がHPなど趣向を凝らした広報活動を行っています。2年目の当支援機構はいかがでしょうか？ご意見下さい。（山添）
支援機構宛 stienkikou@shimnapr.pref.mie.jp

鳥羽市・菅島
診療所のある地区を、診療所医師に紹介して頂きます。第4回菅島です。
菅島町は、鳥羽市佐田浜港から東南へ約3km、市営定期船で18分の距離にある。島内は標高237mの大山を中心に全体が山地となった島で、面積4.52平方キロメートル、周囲13km、世帯数214世帯、人口839人。高齢化率は28.5%と増加傾向にあるが、年少人口については花嫁イベントの効果により結婚と出産が増え、他離島に比し大きな減少にまで至っていない。業種別でみると漁業従事者が一番多いが、第1次産業よりも第3次産業従事者のほうが多くなっている。気候は決して温暖とは言えず、特に冬の強風、寒冷は相当厳しい。島民の疾病では、高血圧、高脂血症、糖尿病、心疾患、肥満症など生活習慣病が多く都会と同じ傾向にある。
（鳥羽市立菅島診療所 上野 宏之 記）

【視察研修に行つてきます】へき地医療研修会参加者の要望が多かつた郡上市和良町へ1月4日・5日先進地視察研修を実施いたします。視察内容は次号でご報告いたします。



診察室の窓から

支援機構・今後の予定
巡回診療・代診医派遣は継続して実施
へき地医療先進地視察研修 11月4日・5日
〔視察先〕岐阜県郡上市和良地域健康福祉局
へき地医療研修会 年度内拠点病院で開催
へき地医療支援連絡調整会議 3ヶ月毎
支援機構HP・ふれあいネットワークHPで案内